

会 報

METAL FORM

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

No. 99

2026年7月

CONTENTS

ぼてんしゃる

- 2 日本鍛圧機械工業会の技術委員長として会員企業に有意義な活動に力を注ぐ
日本鍛圧機械工業会 技術委員長 兼 中小企業委員長 株式会社 相澤鐵工所 代表取締役社長 相澤 邦充

報告

- 3 報告I 第78回定時総会を開催

INFORMATION FILING

- 3 MF技術大賞2026-2027 7月末の締切が迫っています!

MF-TOKYO 2027 第9回プレス・板金・フォーミング展

- 4 7月1日より出展受付を開始しました!

INFORMATION FILING

- 5 MFエコマシン認証制度 2025年実績

ご紹介

- 6 技術情報管理認証制度(TICS※)のご紹介 ※Technology Information Control System

ご案内

- 7 「省力化ナビ」と「よろず支援拠点・生産性向上支援センター」のご案内

会員企業訪問

- 9 “ものづくり”の精神を大切に、人材育成・新素材への挑戦などグローバルに展開する老舗スクリーンプレスメーカー 榎本機工株式会社
11 お客さまに合わせたオーダーメイドにこだわり唯一無二の提案を行う、コイルラインの総合メーカー 株式会社 ユタニ

INFORMATION FILING

- 13 2025年度 鍛圧機械 全会員受注グラフ
鍛圧機械 全会員受注グラフ(月次業況調査)

報告

- 14 報告II 日本鍛圧機械工業会「第3回基礎商品講座」を開講
報告III 株式会社 ユタニ様と株式会社 吉野機械製作所様が2025年度「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選定されました。
新聞報道から見た会員動向(2026年3月5日~6月2日)

工業会の動き
(4月~6月)

定時総会

・第78回(5月15日 東京アメリカンクラブ)2025年度事業と2026年度事業計画の報告、2025年度決算書の承認、理事1名選任の承認、懇親会。

理事会

・第96回(4月10日 書面)2025年度事業報告案、2026年度事業計画案及び2025年度決算書案の承認。
・第97回(5月15日 東京アメリカンクラブ)2026年度役員役職候補案の承認。

正副会長会

・第57回(5月15日 東京アメリカンクラブ)事務局新体制と事務局員昇格についてなど。

委員会

- 企画委員会
・第4回(6月16日)産業ビジョン最終版の確認、日鍛工創立80周年記念行事についてなど。
■ JIS原案作成委員会
・第1回(5月13日 オンライン)ISO 11553-1(レーザ加工機の安全)のJIS化の概要についてなど。
■ JIS原案作成委員会分科会
・第1回(6月17日 オンライン)ISO 11553-1(レーザ加工機の安全)の和訳原案のコメントについてなど。

専門部会

- 油圧プレス専門部会
・第2回(6月3日 オンライン)アンケート結果についてなど。
■ レーザ・プラズマ専門部会
・第5回(6月26日 名古屋 lmy会議室)第5回('26/6/25 名古屋開催)及び第6回レーザ機器管理者講習会について、レーザ機器管理者講習マニュアルの改正についてなど。

- レーザサービス分科会
・第30回(5月29日 ハイブリッド)ファイバーレーザ加工機定期検査項目の精査など。

MFエコマシン認証

- MFエコマシン認証審議会
・第54回(6月23日)認証審査(新規、変更、更新等)の実施、今後の認証審査スケジュールについてなど。

講習会

- 基礎商品講座
・第3回(4月22日、23日)工業会会員の若手社員向けに幅広い基礎商品講座実施と外部講師による一般講演。
■ レーザ機器管理者講習会
・第5回(6月25日 名古屋 lmy会議室)レーザ・プラズマ専門部会によるレーザ機器管理者が行うべき業務等に関する講習。



会報 METAL FORM No.99 2026 年 7 月

発行所／一般社団法人 日本鍛圧機械工業会
〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館3階
TEL.03-3432-4579 FAX.03-3432-4804 URL: <https://j-fma.or.jp/>
発行人／藤嶋 房子 発行／季刊：1月、4月、7月、10月の4回発行

■本誌に掲載した記事の無断転載を禁じます。

日本鍛圧機械工業会の技術委員長として 会員企業に有意義な活動に力を注ぐ

日本鍛圧機械工業会 技術委員長 兼 中小企業委員長
株式会社 相澤鐵工所 代表取締役社長

相澤 邦充



はじめに

この度、日本鍛圧機械工業会の技術委員会委員長を仰せつかり、中小企業委員長と兼務することとなりました。理事副会長の役職も身に余る重責と思っていますが、皆様にいろいろと教えていただきながら責務を果たせればと願っております。特に技術委員長は、MF技術大賞選考委員会の副委員長も務めます。7月末の締切りですので、MF技術大賞を盛り上げるためにも、会員の皆様には積極的にご応募頂ければと思います。

企業としては事業領域拡大を模索中

当社にはシャーとプレスブレーキの技術はありますが、やはり成熟産業というか、どちらかというとなかなか販売台数が増えていかない業界にあります。その中で事業領域を広げていくには、お客様がどういうところに人手を掛けているかという現場を見ることが大切です。そこで、せっかく全自動のシャーを導入していても、寸法を計測したり、またステンレスなどを加工した際に表面に傷が付いていないかを非常に時間を掛けて検査されているということが分かりました。それならば画像処理やロボットの技術を使って改善できるのではないかと考え、当社の工場があり、以前よりお付き合いのあった いわて産業振興センター から岩手大学の先生をご紹介いただき、ご相談したのが新たな技術開発に取組むきっかけです。

静止物であればいくらでも精密に計測や検査ができるのですが、コンベアの上を高速で流れているモノを、しかも切断サイクルにあわせて測定しなければなりません。カメラの下に来る時間が大体1秒位で、その間に寸法を計測して、傷やゴミを検査するという技術開発に試行錯誤しているというのが現状

です。特にカラー鋼板加工など表面の傷などに大変シビアなお客様からは貴重なアドバイスをいただいています。

このようなことがお客様に新たな付加価値をご提供し、ひいては我々の事業領域の拡大へと結びつくのではないかと考えております。現在、岩手県は自動車と半導体の工場の集積地になっており、そこでの先進技術を間近にしながら地元の産業の発展に貢献することも視野に入れ、付加価値の高い技術開発を目指して模索中です。

今後も委員会は会員に役立つ活動を続けていきます

これまでサービス専門部会部会長の時には「MFスーパー特定自主検査(特自検)制度」や「MFシャー定期自主検査制度」を策定したり、レーザ加工機の定期検査制度策定に向けた関連法令を纏めた「LASER GUIDE BOOK」や「プレスブレーキ作業開始前点検チラシ」なども作成しました。また、中小企業委員長になってからは、女性経営者分科会の立ち上げやインドで開催された展示会「IMTEX FORMING 2026」に委員メンバー6社と出展、視察を行いました。また、遅まきながらではありますが、7月17日には「ハラスメント講習会」を実施する予定です。

日本鍛圧機械工業会は会員企業のほとんどが中小企業ですので、つつい後回しになりがちな経営課題もあると思います。各社が共通して関心ある課題について「みんなで学んだり考えてみませんか」と問いかけ、「参加したい」と思っただけの活動を企画・実施して行きたいと考えております。ぜひご協力、ご参加のほどよろしくお願いいたします。

(談)

報告Ⅰ 第78回定時総会を開催

一般社団法人日本鍛圧機械工業会は5月15日(金)に東京・港区の東京アメリカンクラブにおいて、第78回定時総会を開催した。

定時総会は15:00に開会、来賓として経済産業省素形材産業室係長小池優太郎様をお迎えした。磯部任代表理事会長の挨拶に続き、議事が進められた。まず事務局より「2025年度事業報告」と「2026年度事業計画」並びに「正味財産増減予算」が説明され、次に決議事項として、第1号議案の「一般社団法人日本鍛圧機械工業会2025年度決算書」を承認。今回、山田烈史理

事副会長と生田周作専務理事の退任に伴う第2号議案「理事1名選任の件」では、藤嶋房子氏(日本鍛圧機械工業会事務局長)を選任。

定時総会終了後に、第97回理事会を開催し、提示された理事の役職案が承認され、新専務理事に藤嶋理事が就任した。定時総会・理事会終了後の懇親会では、磯部会長の挨拶後に、ご来賓から大今宏史素形材産業室長様と浜野秀光日本塑性加工学会副会長様からご祝辞を頂戴した。中塚尚樹理事副会長の乾杯発声後、150名程のご参加のもと、和やかながらも盛況な懇親会が行われた。



磯部任代表理事会長の挨拶



経済産業省素形材産業室長
大今宏史様のご祝辞



日本塑性加工学会副会長
浜野秀光様のご祝辞



中塚尚樹理事副会長の乾杯発声

INFORMATION FILING

MF技術大賞 2026-2027 7月末の締切が迫っています！

人と地球にやさしい技術、未来につなぐものづくり

2026-2027 METAL FORMING TECHNICAL GRAND PRIZE MF技術大賞

(応募期間：2026年4月1日～7月31日必着)

MF新技術賞 会員企業 単独による新製品・新技術を表彰

「MF技術大賞」は、Metal Forming (MF) に不可欠な鍛圧機械、製品加工、研究などを組み合わせた、プレス・金型・フォーミング機械の世界最高級の大賞です。鍛圧機械の良さを最終製品の良さに証明するため、機械メーカーと加工メーカーなどの「ものづくり総合力」を発揮されたグループを表彰し、鍛圧塑性加工技術の発展に寄与することを目指します。

「MF新技術賞」は、日本鍛圧機械工業会が単独で応募できる賞です。技術的革新性が高く、環境対応性・省エネ性の高い高度な新製品・新技術についても製造産業の「ものづくり総合力」の底上げを図る重要な要素であることから、それらの鍛圧機械・技術を広く知らしめることを目指します。

■ MF技術大賞には表彰金と賞金 100万円
MF技術大賞には新製品と賞金 30万円を授与します。
MF新技術賞には表彰金と賞金 10万円を授与します。
受賞製品(々)を MF-TOKYO 2027 で展示します。
※ 令和8年10月22日(土)まで、令和8年2027年7月31日(水)まで。
※ 応募期間：2026年4月1日～7月31日必着

■ 主催 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会
■ 特別協賛 一般社団法人 日本塑性加工学会
一般社団法人 日本鍛圧協会
一般社団法人 日本金型工業協会
一般社団法人 日本金型工業協会 (協賛)

Jf 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 <https://j-fma.or.jp/>
〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 TEL.03-3438-4679 FAX.03-3438-4804

協賛 MF-TOKYO 2027 第9回プレス・金型・フォーミング展 MFエコミシ展 MF技術大賞

「MF技術大賞」は、Metal Forming (MF) に不可欠な鍛圧機械、製品加工、研究などの7つの要素を組み合わせた、鍛圧機械の世界最高級の大賞です。

高精度・高生産性ならびに安全・環境性能を顕著に有するトータルでエコな製品製作の成果を国内外に発信し、鍛圧塑性加工技術の発展に寄与することを目指します。鍛圧機械の良さを最終製品の良さに証明するため、鍛圧機械メーカーと加工メーカーなどの「ものづくり総合力」を発揮されたグループを表彰します。

■ MF技術大賞制度 運営スケジュール (予定)

- MF技術大賞応募期間 (2026/4/1 ~ 7/31)
製品加工メーカー・鍛圧機械メーカー等が応募代表者となる会員企業と応募
- 応募内容確認期間 (2026/4/1 ~ 7/31)
日鍛工が応募内容を確認
- 受賞候補を選出 (2026/10)
予備審査部会で受賞候補を選出
- 受賞者の決定 (2026/11or12)
選考委員会で受賞者の決定、理事会の承認
- 表彰式 (2027/1)
賀詞交歓会に併設する表彰式にて表彰盾・賞金の贈呈
- 受賞製品展示：MF-TOKYO 2027
受賞製品パネルを MF-TOKYO 2027 に展示

会員企業 単独による新製品・新技術を表彰
MF新技術賞も同時募集！

■ 募集期間 2026年4月1日～7月31日 日本鍛圧機械工業会 事務局 必着。

■ 応募方法 応募方法の詳細は、日本鍛圧機械工業会ホームページや募集パンフレットをご覧ください。

応募書類様式は、ホームページ(会員ページ)よりダウンロードしてください。 <https://j-fma.or.jp>



MF-TOKYO 2027

第9回プレス・板金・フォーミング展

人と地球にやさしい技術、未来につなぐものづくり

7月1日より出展受付を開始しました!

会期：2027年6月23日(水)～26日(土)

会場：東京ビッグサイト 東ホール

MF-TOKYO は、鍛圧機械（プレス・板金・フォーミング・自動化・周辺機器）の国際展示会として2009年に初開催しました。本展は、ドイツと並び世界で製造産業をけん引する日本の最先端の機械や技術を紹介し、わが国の鍛圧機械産業の発展を目的としています。

MF-TOKYO 2027 の副題には、「人と地球にやさしい技術、未来につなぐものづくり」を掲げました。これは、カーボンニュートラルやSDGsへの対応といった環境への配慮に加え、次世代へと技術と志をつなぐ“事業承継”の想いを込めたものです。業界の持続的な発展のためには、技術の進化とともに、それを担う人材の育成が不可欠です。その一環として、これまで取り組んできた大学生・高校生の来場促進に加え、今回は新たに小学生の誘致にも力を入れてまいります。ものづくりの現場を実際に見て、触れて、体験することで、未来の担い手となる子どもたちにその魅力を伝え、将来の進路選択や職業観の醸成につなげたいと考えております。

昨今、環境に配慮したものづくりの要請が高まる一方、人手不足問題もクローズアップされています。ご出展を検討される各位におかれましては、そのような課題解決に向けた自動化、省力化機器の開発を進められていると推察いたします。ユーザ様の期待も大きいと思いますので、ぜひ各位の優れた製品や技術をご出展頂き、本展示会を情報発信・商談の場としてご活用頂ければと思います。

関係各位のご参加を心よりお待ちしております。

開催概要

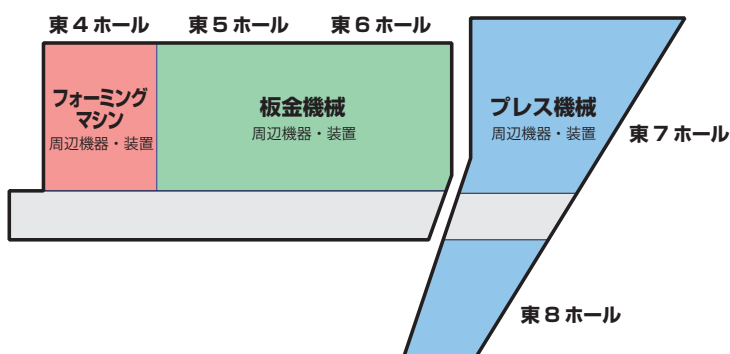
副題：人と地球にやさしい技術、未来につなぐものづくり
会期：2027年6月23日(水)～26日(土)
開催時間：10:00～17:00(最終日は16:00まで)
会場：東京ビッグサイト 東4・5・6・7・8ホール
主催：日本鍛圧機械工業会 / 日刊工業新聞社
目標小間数：1,800小間(前回1,736小間)
目標来場者数：33,000人以上(前回31,207人)

出展料金

1小間(間口2970mm奥行2970mm)約9m²につき、下記の通りとします。

区分	種別	本体価格	税込価格
A	一般	¥420,000	¥462,000
B	協賛団体正会員 (法人のみ)	¥380,000	¥418,000
C	特別協賛団体正会員 (法人のみ)	¥360,000	¥396,000
D	主催者(日鍛工)会員	¥320,000	¥352,000

MF-TOKYO 2027 会場ゾーニングイメージ



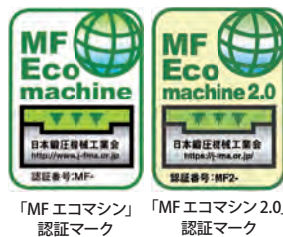
日本鍛圧機械工業会 会員向け
創立80周年特別割引
(今回のみ。対象：上記区分“D”)

2028年に創立80周年を迎える日本鍛圧機械工業会の会員企業については、早期申込(2026年10月30日期限)に限り、1小間分が無償となります。

MFエコマシン認証制度

2025年実績

人と環境に優しいエコプロダクツの実現を推進します！



一般社団法人日本鍛圧機械工業会は2009年4月より、環境配慮型製品の開発促進と環境負荷の低減を目的として「MFエコマシン認証制度」を運営して参りました。この度2021年10月に政府が閣議決定した「地球温暖化対策計画」と整合をとった新たな認証基準「MFエコマシン 2.0」を2024年6月より追加し、この認証製品を拡販することでその製品を使用されるお客様の省エネに貢献することを目的としました。これにより「MFエコマシン認証制度」には下記の2つの認証基準を有することになり、この制度は日鍛工 会員企業製品に適用し、外部有識者が参加した認証審議会において、適合審査・認証・登録・公表を行う制度となります。

①「MFエコマシン」（従来と同等の基準）の基準と認証数

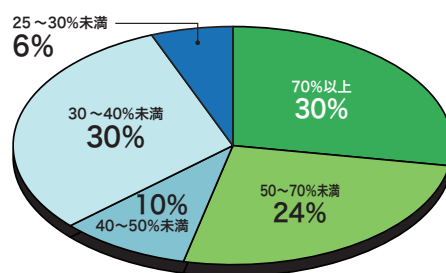
- 概ね2000年の製造機を基準機とし、▲25%以上（年率約▲1%）の省エネ削減率
- 認証数：16社、23製品、85機種（2026年1月1日現在）

②「MFエコマシン 2.0」（新基準）の基準と認証数

- 2013年の製造機を基準機とし、▲40%以上の省エネ削減率
- 認証数：8社、21製品、73機種（2026年1月1日現在）

合計認証数：44製品、158機種

● MFエコマシン認証 +2.0 認証全体の省エネ率による機種数の分布（2025年実績） 総数 158機種



省エネ率
69%
削減電力量
1,351万 kWh
CO₂削減量
6,485 ton
認証機の出荷
1,596台
普及率
33%
となりました。

「MFエコマシン」認証登録リスト

（2026年1月1日現在 16社 23製品 85機種）

■製品区分：プレス機械

登録製品名	会員会社名	登録 No.	登録機種範囲
油圧プレス	川崎油工	MF-P006	KEEP-D5000
機械サーボプレス HIF シリーズ	コマツ産機	MF-P007	H1F 35, 45, 60, 80, 110-2, 150-2, 200-2
機械サーボプレス ダイレクトサーボフォーマ	アイダエンジニアリング	MF-P013	DSF-N2-1100, 1600
油圧プレス HYP-E シリーズ	日本オートマチックマシン	MF-P017	HYP 505HEP, 1000EP
油圧ファイブ プランキングプレス	森鉄工	MF-P021	FBIN-650-FD
機械プレスフォーマ	ティーエスプレジジョン	MF-P022	SF-M150-25, SF-L250-35
機械サーボプレス SDE-I3/GORIKI シリーズ	アマダプレスシステム	MF-P023	SDE 1515I3, 2017I3, 3020I3
サーボモーターダイレクト 油圧プレス	栗本鐵工所	MF-P025	HR4-10SP
エレクトロプレス JP5 シリーズ	ジャノメ	MF-P026	JPU-12T5 他 20機種

■製品区分：板金機械

登録製品名	会員会社名	登録 No.	登録機種範囲
機械サーボパンチプレス Motorum シリーズ	村田機械	MF-B002	M3048TG, M3058TG, M2544TS, M2548TS, M2558TS
パンチング加工機		MF-B003	EMZ3612M2e, EMZ3510M2e, EMK3612M2e, EMK3510M2e, EM3612ZRte, EM3612ZRte, EM3510ZRte, EM3510ZRte
油圧サーボプレスブレーキ HG シリーズ	アマダ	MF-B004	HG-1703, 1704, 2203, 2204
機械サーボプレスブレーキ		MF-B021	EGB6013ARce, EGB6020e, EGB6020ATCe, EGB8025e, EGB1303e, EGB1303ATCe, EGB1303ARse, EGB4010e, EGB6013e
油圧プレスブレーキ PBZ シリーズ		MF-B005	PBZ 1253NET, 1753NET, 2253NET, 2254NET
機械サーボプレスブレーキ PAS シリーズ	コマツ産機	MF-B006	PAS5012NET, 5020NET
プラズマ加工機		MF-B007	TFP510
		MF-B008	TFP08
油圧プレスブレーキ PVS シリーズ		MF-B018	PVS8525NET, 1353NET, PVS2253NET, 2254NET
サーボシャーリング	相澤鐵工所	MF-B012	ASV-512
ディスクレーザ加工機	トルンプ	MF-B013	TruLaser5030 fiber
スポット溶接機	向洋技研	MF-B015	NK-08-KGwc, NK-21-HE(V)-KGwc, NK-71HE-KGwc
カシメプレス	ファブエース	MF-B017	FCP-50 i Plus

■製品区分：自動化及び関連装置

登録製品名	会員会社名	登録 No.	登録機種範囲
サーボトランスファ	伊達機械	MF-K003	TRFN-3-300

「MFエコマシン 2.0」認証登録リスト

（2026年1月1日現在 8社 21製品 73機種）

■製品区分：プレス機械

登録製品名	会員会社名	登録 No.	登録機種範囲
機械サーボプレス SDE-B シリーズ	アマダプレスシステム	MF2-P001	SDE 8018I3, 1120I3, 1522I3, 2025I3, 3030I3
SDEW-B シリーズ		MF2-P002	SDEW 2025I3, 3025I3
機械サーボプレス ZENFormer	放電精密加工研究所	MF2-P003	MP54100
ハイドロフォーム&ペロース成型機	山本水圧工業所	MF2-P004	HDL-CHB-40
スクリューサーボプレス	日本オートマチックマシン	MF2-P005	SBP50ZA
機械サーボプレス ダイレクトサーボフォーマ	アイダエンジニアリング	MF2-P006	DSF-N1-3000

■製品区分：板金機械

登録製品名	会員会社名	登録 No.	登録機種範囲
油圧サーボプレスブレーキ HRB シリーズ		MF2-B001	HRB 5020, 8025, 1003, 1303, 2204
ファイバーレーザ加工機 ENSIS-Aje シリーズ		MF2-B002	ENSIS3015AJe(3/6/9/12/15kW), ENSIS3015Rle(3/6/9kW), ENSIS4020AJe(3/6/9/12/15kW)
VENTIS-Aje シリーズ		MF2-B003	VENTIS3015AJe(4/6/9kW), VENTIS4020AJe(4/6/9kW)
REGIUS-Aje シリーズ		MF2-B004	REGIUS3015AJe(6/9/12/26kW), REGIUS4020AJe(6/9/12/26kW)
BREVIS シリーズ	アマダ	MF2-B010	BREVIS1212AJ (3KW)
PRELAS シリーズ		MF2-B011	PRELAS1212AJ (1KW)
レーザパンチ複合機 ACIES-Aje シリーズ		MF2-B005	ACIES2515AJe, ACIES2512BAJe, ACIES2512AJe, ACIES2515BAJe
LCC1-Aje シリーズ		MF2-B006	LC2512C1AJe, LC2515C1AJe, LC2012C1AJe
EML-Aje シリーズ		MF2-B007	EMLK2512AJe, EML22512AJe, EML22512AJPe, EMLK2515AJe, EML22515AJe, EML22515AJPe
ファイバーレーザ溶接機 FLW シリーズ		MF2-B012	FLW6000ENSISe, FLW3000ENSISe, FLW3000Le, FLW1500MT, FLW1500MTS
油圧サーボプレスブレーキ BH シリーズ		MF2-B008	BH13530
レーザパンチプレス	村田機械	MF2-B009	MF3048HL, MF30510HL
ファイバーレーザ複合加工機		MF2-B014	LS3015MC, LS3015HL, LS2512HL
サーボプレスブレーキ TruBend5000 B23 シリーズ	トルンプ	MF2-B013	TruBend5085, 5130, 5230

■製品区分：自動化及び関連装置

登録製品名	会員会社名	登録 No.	登録機種範囲
レバファイダー	アマダプレスシステム	MF2-K001	LCC 06PU

重要な技術情報はしっかりと守られていますか？

技術情報管理認証制度 (TICS※) のご紹介。

※Technology Information Control System

技術情報管理制度は、2018年の産業競争力強化法の改正で導入された技術情報管理の認証制度です。本認証制度は、2024年に改正され、本年3月に「技術情報管理認証制度について」として、改めて公表されました。技術情報が漏洩すると「経済的な大きな損失」「競争力の大幅な低下」「取引先からの信頼失墜」が誘発されますので、ご参考ください。

■「技術情報管理認証制度 (TICS) について」の概要

公表された資料には、技術情報流出リスクが高まっている背景や技術情報を狙う様々なアプローチ（手法）の事例、中小企業の情報セキュリティ対策状況などを踏まえ、技術情報管理認証の取得方法などが掲載されておりますので、是非ご覧ください。



■ TICS取得のメリット

信頼獲得で取引拡大：認証取得により信頼を獲得、情報セキュリティ要望にも対応。

認証マークで対外的にアピールが可能。

流出リスクの低減：技術情報の管理に対する従業員の意識が向上。

TICS取得に向けた取組で、情報管理を段階的にレベルアップ。

無理なく取り組める制度：中小企業の様々な経営状況に応じて、無理のない負担で認証取得が可能。

■ 認証取得に向けた流れ

Step 1 国が認定する認証機関に認証審査の申し込みを行う

- ・お問合せ・お申込みは、直接、認定技術等情報漏えい防止措置認証機関（認証機関）へ。

Step 2 事業者が希望する場合は、情報管理に関する専門家の助言を受ける

- ・認証取得のプロセスで、情報管理に関する専門家の助言を受けることも可能。
- ・現時点で基準を満たしている自信がない場合でも、認証取得にチャレンジできる。

Step 3 国の基準を満たすか審査を受ける

- ・認証機関が、事業者の実施する情報管理が技術情報管理の認証基準を満たしているかを審査。

Step 4 技術情報管理認証の取得

- ・審査の結果、基準を満たすと判断されると、認証を取得。
- ・認証マークを利用することで、情報管理体制の信頼性を示すことができる。
- ・認証は3年間有効です。認証の維持・更新に向け、専門家派遣を利用することも可能。

■ 認証取得者には、下記の補助金等での優遇措置を受けられます。

- ・Go-Tech事業（成長型中小企業等研究開発支援事業）採択審査時の加点と認証取得費補助（認証未取得者支援）。
- ・新事業進出・ものづくり補助金（新事業進出補助金とものづくり補助金が統合）採択審査時の加点。
- ・IT活用促進資金（日本政策金融公庫）による低利融資。



技術情報管理認証制度パンフレット



技術情報管理認証制度（トップページ）



「省力化ナビ」と「よろず支援拠点・生産性向上支援センター」のご

省力化ナビとは

独立行政法人 中小企業基盤整備機構（中小機構）は、中小企業・小規模事業者の人手不足や賃上げ等の課題に対応するため、中小企業庁および関係省庁と連携し、省力化や生産性向上への第一歩を後押しする支援サイト「省力化ナビ」のサイトをオープンしました。

省力化ナビサイト ⇒ <https://labour-saving.smrj.go.jp/>



中小企業・小規模事業者の方々が直面する、人手不足、物価高、賃上げ・・・

これら乗り越える方法として、省力化・生産性向上は欠かせません。

「省力化ナビ」は、「何から取り組めばいいかわからない」という方々から、「具体的な解決策を知りたい」事業者までをカバーする省力化・生産性向上への取組みを後押しするツールです。

業種ごとに、日々の業務で興味・関心のあるイラストを選択することで、省力化・生産性向上につながる具体的な解決策と取組方法を知ることができます。あわせて、取組事例や相談先となる支援機関もご紹介し、導入ツールの検討や費用対効果の検討などにもご活用できます。また、補助金申請時にもメリットが受けられます。

同時に、支援機関や専門家の方々にも、事業者からの省力化・生産性向上に関するご相談対応のサポート情報を提供できる支援ツールとしてご利用できます。

1 業種別にノウハウを整理

- 業種別に特化したノウハウを整理。
- さらに会計や人事など、業種横断的な業務にも対応。

中小企業によくある課題

製造業



2 イラストなので直感的に理解できる

- よくある課題と解決策をイラストで紹介。
- 具体的な事例や、無料でできる3ステップなども紹介。

解決策

製造業



Step1 基本情報の入力

業種や所在都道府県、従業員数など、診断に必要な事業者の情報を入力します。

会計や人事など、業種横断的な業務にも対応しています。

補助金の申請を希望する場合は、GビズIDを入力します。

(申請しない場合は、入力不要です)



Step2 課題の選択

選んだ業種ごとのイラストが表示されるので、日々の業務で興味・関心のある項目をイラストから選択します。複数選択が可能です。

Step3 解決策の選択

省力化・生産性向上につながる具体的な解決策をイラストから選択します。



Step4 取組方法の確認

選択した解決策の取組方法、取組事例や相談先となる支援機関をご覧いただけます。具体的な事例や、無料でできる3ステップなども紹介。

(補助金を申請する方は、こちらのページのPDFをダウンロードしてください。)



●取組事例

省力化ナビで「解決の糸口」が見つかったら無料で省力化の支援サービスもご利用できます！

① 支援機関に相談する

商工会・商工会議所

ご希望に応じて、商工会・商工会議所の経営指導員や、派遣される専門家などが、**省力化ナビの活用サポート**を行います。
お近くの商工会・商工会議所までご連絡ください。

商工会地区の方



商工会議所地区の方



よろず支援拠点・生産性向上支援センター

生産性向上支援のプロが、伴走型で支援します。
無料で複数回、事業者の皆様の**現場に訪問**します。
お近くのよろず支援拠点・生産性向上支援センターまでご連絡ください。



② 補助金を利用する

省力化ナビを活用すると以下の補助金の採択審査で**加点**されます。

中小企業
省力化投資補助金(一般型)

デジタル化・AI導入補助金

観光地・観光産業における
省力化投資補助事業

よろず支援拠点・生産性向上支援センターとは

中小企業庁は、2026年4月1日より、国が各都道府県に設置した無料経営相談所のよろず支援拠点内に「生産性向上支援センター」を開設しました。

よろず支援拠点サイト⇒
<https://yorozu.smrj.go.jp/>



「残業が減らず、人が定着しない」、「忙しさに追われ、改善に手を付けられない」・・・

生産性向上支援センターは、中小企業事業者等の生産性向上に向けて、複数回（計10回程度を想定）・現場訪問型の徹底した伴走支援を行います。

ポイント1：生産性向上の「プロ」が支援

生産性向上に関する知識・経験豊富な「プロ」が「今の現場に合った」次の一歩を一緒に考えます。

ポイント2：無料・複数回の現場訪問

「相談にいく時間がない」、そのような場合でも、サポーターが何度でも、無料で現場へ伺います。

ポイント3：補助金活用にもメリット

センターの支援を受け、「生産性向上取組計画」を策定することで、省力化投資補助金（一般型）の採択審査において加点が受けられます（2026年夏頃以降の公募回から実施予定）

【相談内容の一例】

・業務の見える化 ・ムリ ムダ ムラの削減 ・5Sの徹底 ・作業の標準化 ・デジタル活用
・生成AI活用 ・省力化投資の検討

よろず支援拠点一覧⇒
<https://yorozu.smrj.go.jp/base/>



よろず支援拠点・生産性向上センター
概要パンフレット⇒



01 榎本機工株式会社

“ものづくり”の精神を大切に、人材育成、新素材への挑戦などグローバルに展開する老舗スクリュープレスメーカー

創業 110 年を超えて、 改めて人材育成に力を注ぐ

鍛造用スクリュープレス機の製造・販売をメインとし、サーボモーター駆動スクリュープレスにおいては国内唯一のメーカーとして世界トップクラスの技術力を誇り、創業 110 年以上の歴史を持つ榎本機工株式会社。多くの企業が撤退した特殊なスクリュープレス機械の製造に特化し、競争の激しい市場で生き残ってきたという。「年間製造台数はわずか 10 台程度ですが、一台ごとの価値は非常に高く、長寿命であることが最大の特長です」と榎本社長は語る。

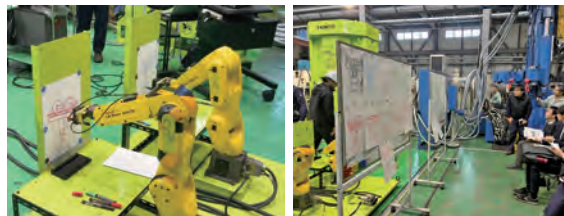
そして数年前より、同社が強化しているのが人材の育成だという。「社員に対しては、月に 1 回、日本塑性加工学会の会員である元大同大学教授の五十川先生を招いて、社内学校として、力学、金属材料、強度解析などの授業を開催しています。元々、五十川先生とは素材の研究や解析を共同で行っており、講師をお願いしたところ快諾していただきました。約 15 名の社員が土曜日に参加しています。他にもバングラディッシュやパプアニューギニアなど海外から来た社員が講師になって、週一回、終業後に英会話スクールも開催しています。希望者のみですがみんな喜んで参加してくれています。もちろん勉強も仕事のうちとして休日出勤手当や残業手当も支給しています。参加した社員はここまで変わるのかと思うほど、モチベーションが上がっています」。



サーボモーター駆動スクリュープレス

社内ロボットコンテストの開催、スポンサー活動、 海外の展示会への出展など積極的に展開

榎本機工では、システム提案のひとつとしてロボットの活用にも力を注いでいる。今では毎年恒例となった社内ロボットコンテストを工場内にて開催している。「2017 年より毎年、社内でロボットコンテストを行い、社員はもとより外部の方にも『見に来ませんか』とご招待して、大学のロボコンチームやエコラン(省燃費競技、省エネカーレース)チーム、当社がスポンサーをしている学生のレーシングチームやインターンシップ生にも来ていただき、コンテストを盛り上げてもらっています。コンテスト終了後にはみんなでバーベキューパーティーを行い、交流を楽しんでいます」。



2025年12月26日、弊社工場にてロボットコンテストを実施

また、榎本機工では、20～30 チームにも及ぶスポンサー活動も行っているという。「地元の 2 つの少年サッカーチームのスポンサーを行っていて、選手の子どもたちを対象に工場見学会を行っています。それ以外にも小学生から大学生のチームやサークルなどを対象に多くのスポンサー活動を行っています。将来的にこの中から、当社の門を叩いてくれる人材が出てくるのではないかと楽しみにしています」と笑みを浮かべながら榎本社長は語った。

さらに、ASEAN 諸国やインドなどへの輸出比率 80% という海外販売実績を持つ同社は、以前より海外市場への参入や展示会への参加に積極的にチャレンジしてきた。「スクリュープレスが日本では売れなくなる時期が来ると思った 1990 年頃に海外進出を考え、最初に中国へ行きました。しかし価格を聞いたら、中国では勝負できないと痛感しました。次に 1997 年のベトナムでのジェットロの日本産業展示会に出展しましたが上



榎本 良夫
代表取締役 (CEO)

榎本機工株式会社
〒252-0101
神奈川県相模原市緑区町屋 1-1-5
TEL.042-782-2842
<https://www.enomot.co.jp>

手くいかず。1997年にジェットロから声が掛かり、インド最大級の機械展示会「IETF」に出展。インドでのビジネス展開はそこから始まり、間もなく30年を迎えます。それを機に、ブラジル、ドイツ、更には先の中国、ベトナムも含めた様々な国の展示会に出展してきました。今後は、アフリカのナイロビでの展示会にも参加する予定です(2026年5月現在)。アフリカでのビジネスが順調になるまでは30年は掛かると覚悟しています。私の経験上、マーケット開拓も人材育成も、“何をやるにも30年”という気持ちで臨んでいます。



アフリカ初見本市出展「Lagos International Trade Fair 2025」
若年層が圧倒的に多く、展示会でも沢山の子供達が来場。



2026年2月20日から23日。インド北部 Panjab州 Ludhianaで
開催された機械展示会に初参加しました。

新素材への挑戦やニッチな受注への対応、 そして根底にあるのが“ものづくり”の精神

榎本機工が、いま取り組んでいることのひとつが炭素繊維の研究。鍛造製品のイメージが強い中で、の挑戦に榎本社長はこう語る。「社内学校の講師をお願いしている五十川先生から声を掛けていただいたのがきっかけですが、炭素繊維の設計は時間が掛かるのでまだ研究段階です。金属加工以外では、直近ですと20キロの塩の塊をつくっています。北海道の牧場で牛の飼料となるので機械オイルが混入してはいけなく、機械が

錆びないようにしなければいけない等、注意が必要ですので開発に試行錯誤しています」。

また、現在、榎本機工の受注で引く手あまたなのがボルトの製造機械だという。「金属加工の中で、実りを迎えているのがボルトの製造機械です。レールボルト、風力発電のボルトなど1mを超える長いボルトを作っている会社が少なく、元々ニッチなマーケットでした。当社はボルト製造用の機械をつくっていませんでしたが、いまはボルトの製造機の需要も高く、インド、スロベニア、チェコ、ドイツからも注文があります」。



炭素繊維の研究



自社加工の
大きなメインスクリュー

創業110年以上の歴史を持つ榎本機工株式会社の根底にあるものは、“ものづくり”の精神だと榎本社長は話す。「私自身は元々機械工学系の出身で、“ものづくり”が好きでやっているという点が何よりも強いです。当社は37期を迎えましたが、当初はとにかく赤字にしないように頑張ってきました。それが、ある時から“ものづくり”を日本に残さなければいけないという思いが強くなってきました。同時に、そのためには人を育てるべきだという気持ちも強くなり、さらに学会や学校の先生との付き合いがないと技術の向上も見込めないと考えるようになり、人の大切さを実感しました。いまでも、社員や海外の方を採用する際に最も重視するのは、“ものづくり”が好きかどうかということです。私が最も大切にしているのは、こういった“ものづくり”の精神です。『日本の源流は“ものづくり”にある。この技術を失えば日本は成り立たない』という強い信念を持ち、これからも“ものづくり”の重要性を訴え続けてまいります」。

02 株式会社 ユタニ

お客さまに合わせたオーダーメイドにこだわり 唯一無二の提案を行う、コイルラインの総合メーカー

「ものづくりのパートナー」として、
お客さまと共に生産ラインの
自動化・効率化を実現

コイルライン、レベラー、プレス周辺搬送等を中心とした自動化装置をつくるコイルラインの総合メーカーとして、50年以上の豊富な経験と実績を持つ株式会社 ユタニ。ブランキングライン、順送ライン等のプレス用コイルラインや、ロータリーシャー、ストップカットシャー、電磁鋼板斜角切断などの各種シャーラインを中心に、プレス周辺搬送として、トランスファー、プレス間プレス内の搬送ロボット、ディスタッカーなどを組み合わせた提案も数多く行っている。

「1937年に機械部品の加工から創業し、1960年代には最初の自社ブランド製品であるアンコイラーから、コイルライン、レベラー、フィーダーなどの設計、製作へとチャレンジを続けてまいりました。以来、50年以上に渡り、7,000物件以上のコイルライン設備をつくり続けてきております」と辰巳社長は話す。

特にお客さまのご要望に応えた、ラインづくり、機械づくりにおけるノウハウの蓄積は群を抜いているという。「お客様の要望に応える体制をセミオーダーと呼んでいて、決してフルオーダーではありませんし、既成機をそのままお渡しするのではなく、当社の実績をベースにお客さまと一緒に計画を立てて、オーダーに応じていく製造を心掛けています。そのため早めにお客様との打合せに臨むようにして、長年に渡って安心してご使用いただける、ものづくり体制、アフターサービス体制を整えています」。



600w×5t 2レベラーライン

他社との協業も積極的に推進
広くなった新工場ではラインナップの充実を図る

近年、ユタニは、台湾の搬送装置メーカーやロボットシステムインテグレーターなど、他社との協業も積極的に進めているという。「元々、自分たちにできないことは、その分野に強いメーカーと協業していこうという方針は明確にあり、社員も共有していたので、スムーズに行えています。ただ全部門が満足できる協業先を見つけることは難しく、常にアンテナを張っていないはいけません。コロナ明けにインバーターやモーターが入らず出荷できないなど外部環境に左右された時期もありましたので、そんな状況に負けないためにも協業先の選択肢は広げていかなければいけないと考えています」。

そして、2026年1月、新工場が竣工し、4月から本格的に稼働した。「コイルラインや、後工程で必要なレベラー、フィーダーの製造において、ワンストップのニーズがあると感じていました。トランスファーやロボットにもチャレンジしていく課程で、どうしても受注するラインナップが増えていき、今までは場所が窮屈になることが多かったのですが、新工場の広いスペースでは問題なく取組むことができます。さらに、ワンストップのニーズと技術を高めることができるだけでなく、社員が安心・安全に働ける環境も整備することができました」。



2026年1月に竣工した新工場



辰巳 芳丈
代表取締役社長

株式会社 ユタニ
〒 581-0039
大阪府八尾市太田新町 4-88
TEL.072-943-1213
<https://www.yutanico.co.jp/>



オフィス、食堂などモダンに改装し、職場環境向上に積極的に投資

若手社員によるマスコットキャラクター誕生！ 毎年、新卒の採用にも力を入れている

2025 年 10 月に誕生したユタニのマスコットキャラクター“ユタドン”と“レベラーくん”は、入社1年目の若手社員が生みの親であるという。このような遊びこころのある起用も会社の風通しの良さを物語っている。「マスコットキャラクターは、社員からの発案で、いろいろなアイデアの中からみんなの投票で選ばれました。今は社内のいろいろな所に登場しています。例えば、ドアのところに『ドアは閉めて』と無機質に表記してあるより、“ユタドン”が『ドアを閉めよう!』と書いていると、なぜかみんなちゃんと閉めてくれます(笑)。ユタニのPR 大使としての役割も果たし、今後も活躍を大いに期待しています」。

また、2020 年以降ほぼ毎年、大学新卒者が入社している。「当社のような小さい会社の新卒採用はあまり聞きませんが、毎年、力を入れているところです。会社説明会では当社が何を目指して、入社後はどんな活躍ができるかをお話して、面接はお互いにチャレンジしたいことなどを徹底的に話し合います。それ故に入社1年目から活躍してくれます。現在は、20 代 30 代の社員が 50% を占めています」。会社の未来のためにも新卒の採用は続けていくと辰巳社長は熱く語る。



入社1年目の若手社員によるマスコットキャラクター

地域貢献への活動、 今後もベストな提案を続けていく姿勢

ものづくりの現場を一般開放し、ものづくりを体験、体感してもらうイベント「FactorISM」を八尾市、堺市を中心に展開しているが、ユタニも 5 年前から参加している。「イベントの担当を、会社の縁の下の方持ちとも言える資材調達チームにやってもらったところ、生き生きと活躍してくれました。今では周りをどんどん巻き込んで、全社的な取組みになっています。工場ツアーを行ったり、キッチンカーを出したり、子どもたちにも喜んでもらえるようなイベントを開催しています。将来的に、イベントに参加してくれた子どもたちが“ものづくり”に興味を持ってもらえれば嬉しいです」。



昨年10月24,25日に開催した「FactorISM」では、多くの方々がものづくりを体験

今、ユタニでは、『非合理への挑戦』というスローガンを掲げ、目標にしている。「ポスターの文章をぜひ読んでいただきたいのですが、あくまでも当社がオーダーメイドにこだわり、お客さまのためにたった一つの機械をつくること、そして、その毎日は『非合理』との戦いであるが、それが株式会社ユタニの強みであることを宣言したものです。仕事をしていくうえで、お客さまにとって良いことなのか、そうではないのか、いくつ気づくことができるのか。これはマニュアルでは教えることはできず、お客さまのために考えられる人材を育てることが大切と考えます。今後も私たちはお客さまにとってベストな提案をとことん考え、カタチにしていこうと全力を尽くします。また、この度中小企業庁の 2025 年度「はばたく中小企業・小規模事業者 300 社」に選定されましたので、これを励みに邁進したいと思います」。



常にお客さまのために唯一無二の提案を行ってきた株式会社 ユタニ。今後、新工場からどのようなラインナップが生み出されるのか楽しみである。

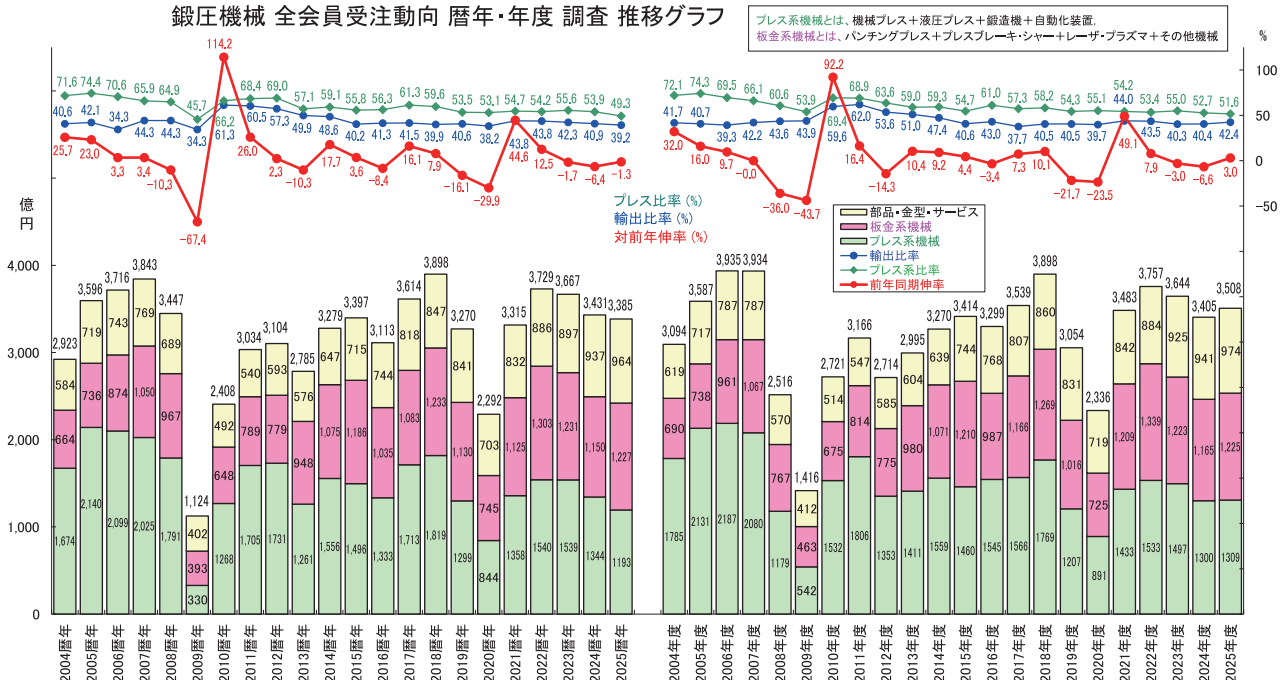
2025年度 鍛圧機械 全会員受注グラフ (業況調査)

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

2026年4月8日

1. 概況 受注金額は3,508億円と前年同期比3.0%増となった。プレス系・板金系・サービス系そろってプラスであった。上期はトランプ関税の影響もあり、特にプレス系の輸出が伸び悩んだが、下期は輸出も復調し、年度トータルでは前年を上回る結果となった。今後は中東情勢の行方もあり、必ずしも楽観できる見通しとはいえないと考える。
2. 機種別 プレス系は1,309億円と前年同期比0.7%の微増であった。小型・超大型プレス・フォーミング・油圧プレス周辺装置はプラスであったが、中型・大型プレスはマイナスとなった。板金系は1,225億円と前年同期比5.2%の増であった。パンチングは8.4%増、プレスブレイキが14.6%増、レーザー・プラズマのみ6.3%減となり、サービスは974億円、3.6%増であった。
3. 国内業種別 (機種合計) 国内向けは1,458億円と前年同期比0.6%の微減で、輸送5.2%増、金属製品製造8.2%増、一般機械0.3%増、鉄鋼・非鉄金属36.2%増であったが、電機のみ18.7%減となった。
4. 輸出地域別 (機種合計) 輸出向けは1,075億円と前年同期比7.9%増であった。北米向10.2%増、中国向43.7%増、東南アジア向0.9%微減、韓国・台湾向0.4%微増、欧州向9.3%減、インド向24.7%減、中南米向2.0倍であった。

鍛圧機械 全会員受注動向 暦年・年度 調査 推移グラフ



鍛圧機械 全会員受注グラフ (月次業況調査)

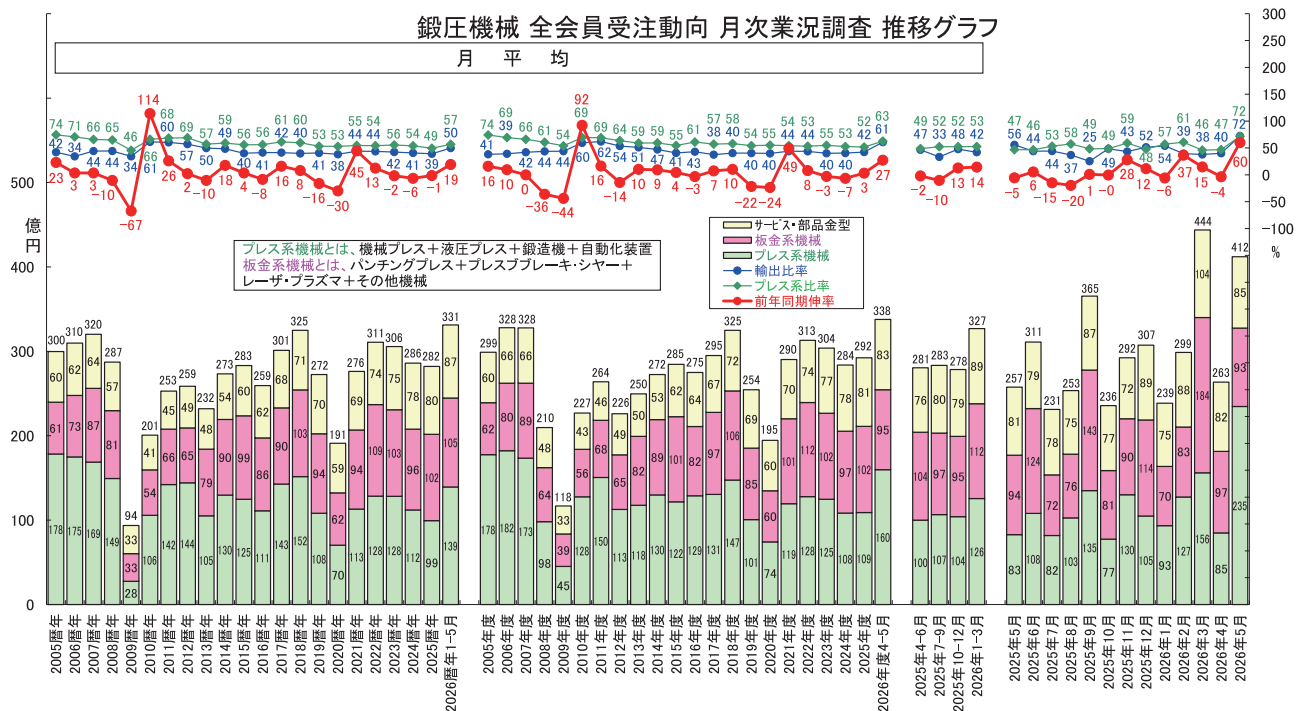
一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

2026年6月9日

2026年5月度 鍛圧機械 全会員受注動向 月次業況調査コメント

1. 概況 受注総合計は412.1億円となり、前年同月比60.1%増と大幅に伸長した。プレス系、サービス系はプラスとなったが、板金系は若干マイナスとなった。地政学リスクはまだ完全には解消されてはいないものの、プレス系では大型プレスの南アジア向受注があり、全体としては対前年比85%増となる受注となった。
2. 機種別 プレス系機械は234.6億円と前年同月比2.8倍と大幅に増加。小型プレス58.3%増、フォーミング93.8%増に加え、大型プレス約10倍、超大型プレス4倍、周辺装置約2倍増と幅広く伸長した。板金系機械は93.0億円と1.2%減となった。パンチング1.6%増、レーザー・プラズマ0.4%増が下支えした一方、ブレイキ・シャーは9%減となった。サービス系は84.5億円と4.9%増となった。
3. 内外別 国内は90.9億円と16.7%増となった。鉄鋼8%増、電気0.7%増、輸送2.1倍であったが、一般27.4%減となった。
- (機種計) 輸出は236.7億円と2.4倍であった。中国向2倍、インド向17.3倍、韓国・台湾向16.4%増、欧州向13.9%増、北米向58.2%増であったが、東南アジア向68.6%減となった。

鍛圧機械 全会員受注動向 月次業況調査 推移グラフ



報告Ⅱ 日本鍛圧機械工業会「第3回基礎商品講座」を開講

日本鍛圧機械工業会 企画委員会（委員長：中塚尚樹 アイダエンジニアリング 上席執行役員）は、第3回基礎商品講座を4月22日(水)、23日(木)の二日間に亘り、機械振興会館（東京都港区）で開講した。

当工業会の会員企業は、プレス機械、板金機械、フォーミング機械、各種周辺装置など広範な製品を扱っているが、自社製品以外の機械については体系的に学ぶ機会が少なく「名称は知っているが具体的な内容までは理解していない」という課題を抱えている。そのため本講座では、職種や年齢を問わず入社3～5年程度の会員企業社員を対象に、業界において必要と思われる幅広い商品知識を習得することにより、日常の仕事での見方・捉え方を深め、さらには講座参加者同士の親睦をはかることで自己研鑽の一助となることを目的としている。



中塚企画委員長による開講挨拶



基礎商品講座 講義風景



活気を帯びる「グループワーク」

初日は、冒頭に中塚企画委員長の挨拶の後、「鍛圧機械市場について」を生田周作専務理事、「塑性加工の基礎」と「プレス機械・送り装置」について宮下達委員（アイダエンジニアリング）、「板金機械」については村山祐樹委員（トルンプ）から講義が行われ、初日最終カリキュラムの「グループワーク」では、5、6人を一組として活発な意見が交わされた。その後の懇親会は活気に溢れ、参加者の親睦も図られた様子だ。二日目は、磯川和也委員（旭精機工業）による「フォーミング機械」「安全装置」の講義に続き、事務局による「安衛法/安衛則」の講義、外部講師の米田靖之氏（LIFE STAGE LAB 代表）から「世の中の第一線で活躍する人材になるために、今やっておくこと」の講演が行われた。参加者31名には修了証が授与されたが、最後まで熱心に講義を受ける姿が印象に残った。

報告Ⅲ 株式会社 ユタニ様と株式会社 吉野機械製作所様が2025年度「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選定されました。

中小企業庁は、経済社会構造の変化に対応して事業変革や新規事業に挑戦し、地域経済や日本経済の成長への貢献が期待できるモデルとなる五つの分野（成長戦略・生産性向上、海外展開、GX、DX、人への投資・環境整備）で、優れた取組を行っている中小企業を「はばたく中小企業・

小規模事業者300社」として選定しています。

株式会社 ユタニ（代表取締役 辰巳芳丈氏）と株式会社 吉野機械製作所（代表取締役 吉野友章氏）の2社が、成長戦略・生産性向上分野で選定されました。誠にありがとうございました。

新聞報道から見た会員動向

日刊工業新聞、日本経済新聞、全国紙、一般紙などに掲載された会員の記事を抄録して順不同で掲載します。

今回は、2026年3月5日から6月2日に掲載された記事が対象ですが、決算、人事などの情報は除外しています。

日本鍛圧機械工業会+共通

- 圧機械受注、昨年度 3507 億円 3年ぶり増、関税影響小さく
2026/04/14 日刊工業新聞 10 ページ 1042 文字
- 鍛圧機械、4月受注 3.6%減 大型プレス系落ち込む
2026/05/27 日刊工業新聞 News ウェーブ 21 10 ページ 995 文字

プレス機械系

- アイダエンジニアリング
○アイダエンジニアリング、プレス加工ライン向け高速搬送ロボ2機種
2026/04/06 日刊工業新聞 1 ページ 998 文字
- アイシス
○アイシス、高精度プレス機 部品3D測定、隙間極小化
2026/03/30 日刊工業新聞 10 ページ 1031 文字
- 山田ドビー
○生産ライン 競争力の源泉 (105) 山田ドビー 大型工作機械 22 台導入
2026/05/21 日刊工業新聞 7 ページ 1019 文字

板金機械系

- アマダ
○アマダ・土岐事業所「ぎふ脱炭素トップランナー表彰」受賞/
CO₂削減の先進的取り組み評価
2026/03/09 鉄鋼新聞 5 ページ 576 文字

- アマダプレスシステム、社長に山本浩司氏
2026/03/27 日刊工業新聞 3 ページ 165 文字
- アマダ、加工機の発振器がレーザー学会産業賞の奨励賞受賞
2026/04/27 日刊工業新聞 7 ページ 329 文字
- バイストロニックジャパン
○経営ひと言/バイストロニックジャパン・宮島弘之社長「国内認知度カギ」
2026/04/24 日刊工業新聞 11 ページ 236 文字
- 村田機械
○村田機械、レーザー複合機 プレス能力抑え小型化
2026/03/30 日刊工業新聞 11 ページ 629 文字
- 吉野機械製作所
○吉野機械製作所、自動化・AI 活用紹介 100 億ゼミ向け
2026/05/27 日刊工業新聞 9 ページ 447 文字
- ユーザック
○第 10 回ものづくり日本大賞 技を極める (7) 経済産業大臣賞 ユーザック
2026/05/29 日刊工業新聞 8 ページ 1077 文字

フォーミング機械系・その他

- 京葉バンド
○生産ライン 競争力の源泉 (95) 京葉バンド パイプ曲げ機 最適仕様に
2026/03/12 日刊工業新聞 7 ページ 979 文字
- タケダ機械
○タケダ機械、形鋼加工機の周辺装置試作 待機時間ゼロ
2026/04/22 日刊工業新聞 8 ページ 627 文字

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 会員一覧

2026年7月1日現在 五十音順・法人格省略

会員（107社）

相澤鐵工所	ゼロフォー
アイシス	ソノルカエンジニアリング
アイセル	大東スピニング
アイダエンジニアリング	大同マシナリー
アサイ産業	ダイマック
浅野研究所	高千穂システムエンジニアリング
旭サナック	タガミ・イーエクス
旭精機工業	タケダ機械
アマダ	伊達機械
アミノ	ティーエス プレシジョン
アルファ TKG	東京精密発條
Astemo	東和精機
ITACA JAPAN	トルンプ
板屋製作所	中島田鉄工所
Eプラン	中田製作所
エーエス	ニシダ精機
エステーリンク	ニデックドライブテクノロジー
エヌエスシー	日本オートマチックマシン
榎本機工	日本酸素
HSG エンジニアリング	能率機械製作所
大阪ジャッキ製作所	バイストロニックジャパン
大阪ロール工機	パスカル
オーセンテック	日高精機
大峰工業	ファナック
オプトン	ファブエース
型研精工	富士機工
川崎油工	富士商工マシナリー
川副機械製作所	フリーベアコーポレーション
関西鐵工所	PEM Japan
キャドマック	放電精密加工研究所
キョウシンエンジニアリング	ホンダクリエイティブ
協和マシン	ホルビガー日本
栗本鐵工所	松本製作所
京葉ベンド	豆蔵
ゲルブ・ジャパン	万陽
KH エンジニアリング	三菱長崎機工
小池酸素工業	宮崎機械システム
向洋技研	村田機械
コータキ精機	メガテック
コスメック	モリタアンドカンパニー
コニック	森鉄工
コマツ産機	ヤマザキマザック
コムコ	山田ドビー
小森安全機研究所	山本水圧工業所
阪村機械製作所	油圧機工業
阪村ホットアート	ユーザック
サルバニーニジャパン	ユタニ
三起精工	吉田記念
三共製作所	吉野機械製作所
しのはらプレスサービス	理研オブテック
澁谷工業	理研計器奈良製作所
ジャノメ	理工社
杉山電機システム	レーザ技術サービス
住友重機械工業	



会報METAL FORM No.99 2026年7月

2026年7月1日発行 No.99（季刊1,4,7,10の月の1日発行）

発行所 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館3階 電話 03(3432)4579(代)